

11月アイデア 発表会のまとめ

・発表① 01

・発表② 02

参加者から・次回予告

明日の授業の役立つアイデア満載 アイデア発表会 11月

熊本県小学校教育研究会国語部会
会長 濱本 竜一郎
熊本市小学校国語教育研究会
会長 小山 恵子

参加しやすい時間帯!

日時 令和6年
11月22日

金 17:30-18:30

@オンライン Zoom



オンラインで
気軽に参加できる!



「嫌だな」を「やってみたい」に変えるために
岩崎 小莉依 先生 (熊本市立城西小学校)

「長い文章を読むのは嫌だな」「文章は書きたくない!」など、国語の授業の中で後ろ向きな子どもの声を聞いたことはありませんか。様々な面で国語を苦手と感じている子どもたちが、少しでも「やってみたい!」「これならできるかも!」と思えるような工夫を考えてみました。授業の始めやちょっとした時間でやってみたことを、これまで関わった子どもたちの姿を交えながらご紹介します。



子どもの「話す力」「聞く力」を育てるために～相手や目的を意識して～
溝口 穂奈実 先生 (多良木町立黒肥地小学校)

「話す力」「聞く力」は、国語科のみならず、その他の教科等や日常生活の様々な場面で重要であり、話の内容を聞き取ったり、わかりやすく話したりする力を付けることが求められています。子どもたちの「話したい!聞きたい!」という思いを大切にしながら力を付けていく授業を展開するためには、どうすればよいのか悩みの先生も多いのではないのでしょうか。昨年度の国語教育研究大会で4年生と一緒に取り組んだ実践を紹介します。先生方もぜひ一緒に考えてみませんか?



「嫌だな」を「やってみたい」に変えるために 岩崎 小莉依 先生（熊本市立城西小学校）

岩崎先生は特別支援学級を担任されたご経験から、「読むこと」「書くこと」に対する子どもたちの「やってみたい」を引き出す実践をご紹介します。

その1. 「読みたい！」と思わせる工夫

★「題名読み」でイメージを広げる

子どもたちが長い文章を読みたくない要因に、

「自分の知識や経験とのつながりをもてない」「言葉や表現を具体的にイメージできない」ことが考えられます。

教材文との出会いで、題名読みをされた経験がある先生も多いのではないのでしょうか。岩崎先生の題名を文節で分けて、言葉のイメージを広げるアイデアが面白いと思いました。

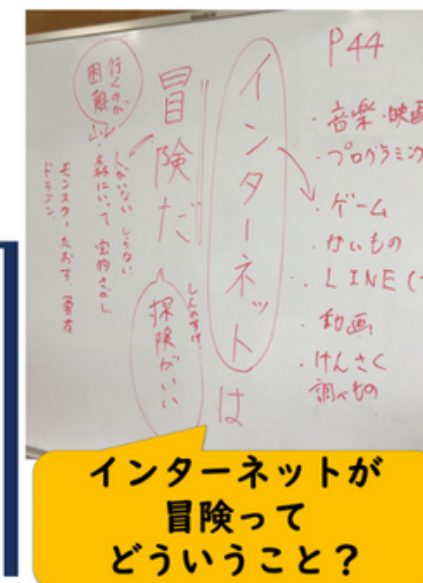
また、文章中に出てきた言葉調べも、子どもたちの言葉への関心を高めるとともに、文章をよく読もうとするきっかけになりますね！

★題名から

いったいどんな
すごい石なんだろう？

伝説	おにぎり石
おにぎり石に伝説がある すこい 歴史 昔から伝えられている 歴史 おにぎり石に伝説がある	おにぎり石に伝説がある すこい 歴史 昔から伝えられている 歴史 おにぎり石に伝説がある

おにぎり石の伝説



その2. 「書きたい！」と思わせる工夫

★「できそう」「できた」の経験作り

書くことへの抵抗感を減らすため、授業始めのちょっとした時間でできる活動をご紹介します。活動の流れは、①お題を確認 ②1～2分間、箇条書きでひたすら書く ③書いた言葉の共有 です。

・「言葉集めゲーム」

お題を確認する

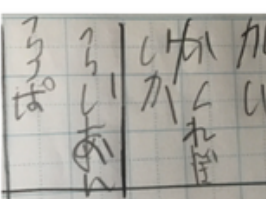
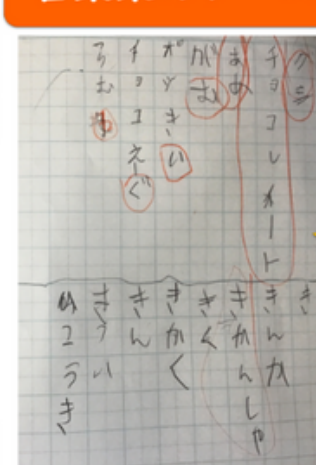
「あ」がつく言葉

食べ物

教室の中にある物

学習内容に関連したお題にすることも
→読むときのイメージ作りへ

言葉集めゲーム



友達と一緒に
だったものに
丸をつけて！



・「見て書くゲーム」

お題を確認する

イラスト

写真

実物

ここでは、
質は問わずに書く
量が増えたら○



事実と考えを分ける

赤い

果物

葉が
ついていて

事実

おいしそう

色がきれい

私の好きな
食べ物

考え



★国語の授業で



子どもの「話す力」「聞く力」を育てるために～相手や目的を意識して～ 溝口 穂奈実 先生（多良木町立黒肥地小学校）

HOME



溝口先生からは、4年「話すこと・聞くこと」の「調べたことをほうこくしよう」（東京書籍）の実践についてご発表いただきました。（令和5年度の県大会における実践です！）

その1.学習意欲を持続させるための工夫

★「相手意識」・「目的意識」を明確に！

★だれに報告するのか→相手意識



★なぜ報告し合うのか→目的意識

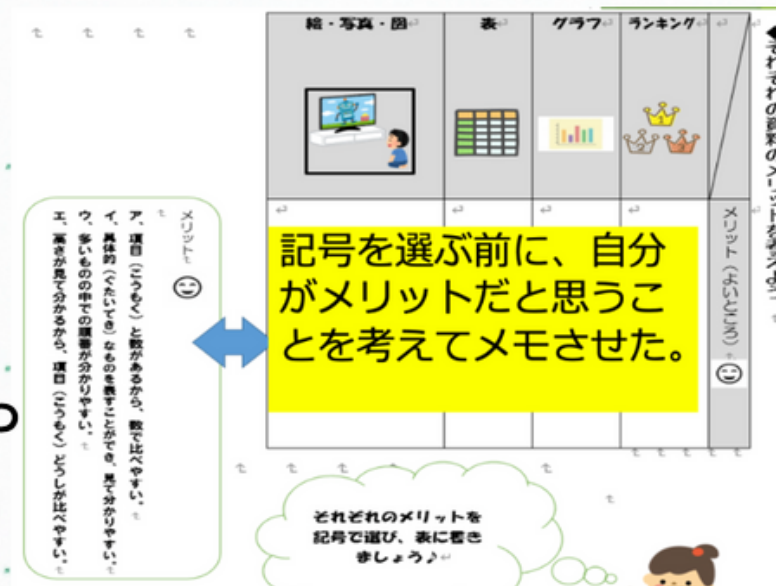
両校の4年生にお互いに知りたいこと・自分の学校や学級についてどうしても伝えたいことなどは何か、事前のアンケートを実施



別の学校の学級で授業をするというシチュエーションを生かした、溝口先生ならではのアイデアでした。また、この「相手・目的」意識を毎時間提示して、単元のゴールをいつも全員で確認されたそうです。

その2.子どもたちが自ら必要な資料を選択するための工夫

★教師のモデル動画と資料の検討により、資料があるよさやそれぞれの資料の良さを実感！

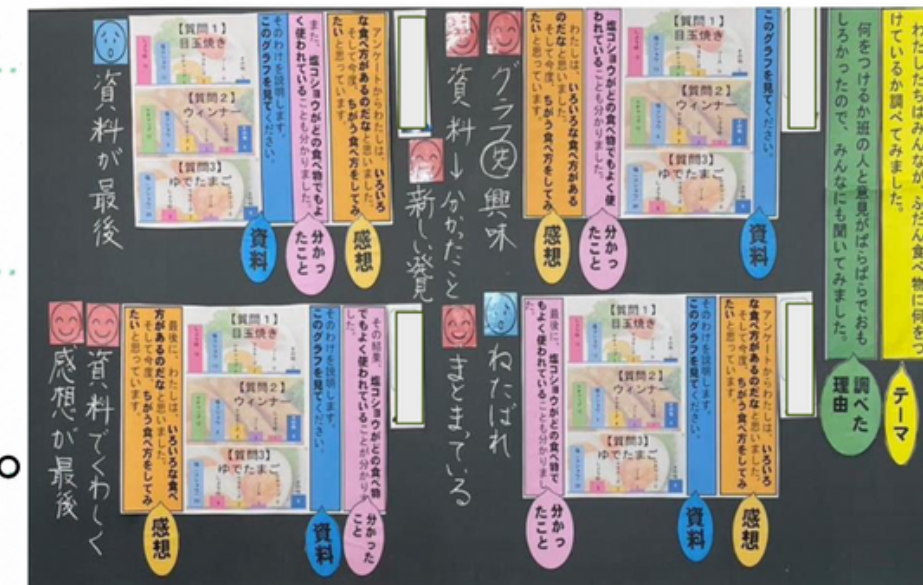


その3.「話の構成」を捉えさせるための工夫

★「話す順番」で伝わり方を検討！

ここでも溝口先生の学級の子どもたちが実際に登場する動画を用いて、調べたことを報告する動画を作られていました。

しかし、この動画には報告の続きがありません。そこで、どんな話の構成にしたのかみんなでも検討していきます。



短冊で自分で並べ替え、いろいろ話の順番を試すことで、順番が変わると相手への伝わり方も変わることに気付けたようです。





岩崎先生のご発表からは、読むことや書くことに苦手意識を持っている子どもたちへの日常的な手立てを学ばせていただきました。

子どもの「やってみたい」「できそう」などのやる気スイッチを押す工夫、「わかった」「できた」の経験づくりなど、自分の学級でもやってみたいです。

溝口先生からは県大会でのご実践をもとに発表いただきました。子どもの実態や目指す姿から、単元全体がデザインされた素晴らしいご実践だと思いました。

特に、今回のシチュエーションを生かした目的意識・相手意識のもたせた方、話の構成を検討するアイデアがとても素敵でした。



次回予告

今年度最後のアイデア発表会でした。ご実践や日々の授業で使えるアイデアをご発表いただいた先生方、ご参加いただいた多くの先生方、本当にありがとうございました。

次年度以降も熊本県や市の先生方のニーズに合わせた研修会を実施していきたいと思えます。